

[文]学部1年男子の 合格体験記

自己紹介

初めまして。私は文学部人文科学科の一年生です。出身は東京都です。一般入試で入学しました。

東北大を志望した時期とその理由

志望した時期： 高三冬（センター試験後）
理由： センターはA判定が出るくらいだったが、それまでの志望校と実力の差を認識し、変更を決意。二次試験の形式が自分に合っており、帰省しやすい立地でもあったため。

受験期の勉強方法

国語：現代文は学校の授業でやった問題、模試の問題、過去問を見直し、わからないところがあればなかったままにはしない。古典も同様。

数学：問題集の標準問題までは確実に解けるように反復。そのあとはひたすらに過去問と例題を解いた。

英語：文法も単語もできなかつたので、長文問題を解くことでそれら全てをまとめて学習。リスニングは英語の音楽を聴いたりした。

理科：化学・生物の基礎を選択。ただただ過去問を解き続ける。

社会：世界史・倫政を選択。世界史は単語帳を隅から隅まで暗記。教科書も暗記。倫政は世界史と内容が被っている範囲については無視。また倫理では偉人たちの思想について本を読んで理解に努めた。

モチベーションの保ち方

安くて大量に入っているお菓子を爆買いし、後先考えず食べたいと思ったら食べた。また、どうしようもなくやる気が出ない時は一切勉強せずにゲームなり読書なりして過ごした。何よりも自身のストレスの解消に専念した。

受験直前～当日

センター直後の自己採点から、私立はセンター利用で受かっていることがわかったので、私立対策は一切せずに二次試験対策に専念。学校の先生に頼み込んで現代文の記述問題や英語の作文、和訳など自分では採点しづらい問題の添削をしてもらい、更に時間を普通の学校生活の時間と同じにすることでライフサイクルを固定したままにした。自分があがり症なのはわかっていたので受験の空気に慣れるために、出願済みの私立も受験。仙台には前日入りし、あらかじめ会場を確認。夜も今まで通りに過ごし無為な緊張を無くして試験に臨んだ。

大学に入学して…

【交友関係】今までとは違い、多くの選択肢の中から自分で決めた授業を取る形式のため、同じ学部の人間というよりも、同じ授業を受けている人間との方が仲は深まる。特に英語や第二外国語などの出席番号でクラスが振り分けられる授業では顔を合わせる回数も多くなるので、必然的に友人が増える。出身地から離れているからか出会う人出会う人個性的で面白いと感じられ、大変面白い友人たちが多くできた。ただ友人たちと外食に行ったりするのはあまり参加できていない。そういったときの疎外感は強く感じる。

【サークル】高校と違い、様々なサークル活動が存在しているため、大変に迷ったが、小さい頃の夢や趣味趣向を思い出し、文系ではあるが化石・鉱物サークルに加入。とはいえ、入ったばかりならばその活動に関する知識については理系の同級生もそう変わらないレベルであったため、安心して活動を続けていった。いまではすっかりサークルのことしか考えないような人間に。兼部ならぬ兼サークルとしては、この合格体験記を載せているおおわん（東北大生協学生委員会）がある。どちらも忙しいことには忙しいが、その分楽しく感じる。

受験生へのメッセージ

君が自分の進む道を自分で選び、そのための努力をする。どれだけ辛くともだれかが代わることはできないし、手を抜いても怒る人はいないだろう。ただし、最後に後悔はしないように。頑張る。

